

(様式1)

県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取県立倉吉東高等学校

重点項目	大学進学	提出日	令和3年2月10日
------	------	-----	-----------

1 学校目標																							
「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。																							
2 重点項目に係る目標																							
・中部地区を代表する進学校として、国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程編成に努め、生徒の着実な学力の伸長を図るとともに、生徒・保護者・中学校などからの期待にふさわしい進学実績を維持し、さらなる向上をめざす。 <数値目標> 中堅国公立大学以上合格者数 50 名以上 難関大学・学部（薬学部）以上合格者数 20 名以上 超難関大学（東京大学・京都大学）・学部（医学科）合格者数 5 名以上																							
<table border="1"><thead><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">目標</th><th colspan="3">実績</th></tr><tr><th>R1</th><th>H30</th><th>H29</th></tr></thead><tbody><tr><td>中堅以上</td><td>50</td><td>49 (56)</td><td>43 (53)</td><td>29 (45)</td></tr><tr><td>難関以上</td><td>20</td><td>12 (19)</td><td>17 (23)</td><td>10 (15)</td></tr><tr><td>超難関</td><td>5</td><td>3 (7)</td><td>2 (8)</td><td>1 (2)</td></tr></tbody></table> <p style="text-align: center;">※ () 内は浪人生を含めた数</p>		目標	実績			R1	H30	H29	中堅以上	50	49 (56)	43 (53)	29 (45)	難関以上	20	12 (19)	17 (23)	10 (15)	超難関	5	3 (7)	2 (8)	1 (2)
			目標	実績																			
	R1	H30		H29																			
中堅以上	50	49 (56)	43 (53)	29 (45)																			
難関以上	20	12 (19)	17 (23)	10 (15)																			
超難関	5	3 (7)	2 (8)	1 (2)																			
3 事業計画（事業名、事業概要）																							
【高等学校課事業】 ■学校連携チャレンジ・サポート事業 3年生鳥取県高等学校合同東京大学対策講座、2年生難関校志望者学習研修、1年生難関校志望者学習研修を、鳥西生、米東生をはじめとする県下の超難関大学志望者とともに受講、研修を重ねることで、本校超難関大志望者の学習意欲を高めると共に、参加校の教職員との情報交換ならびに本校教職員の教科指導力の向上を図る。 ■鳥取県版キャリア教育推進事業 文理選択とキャリア形成（1年）、学部学科研究と進路選択（2年）、大学受験の現状と大学での学習内容（3年）のそれぞれについて、有識者や大学職員を招いて講演を行うことで、生徒の目標設定や意識付けを図る。																							

(様式1)

【独自事業】

■学力向上推進事業

・ **難関校ゼミ訪問（東大オープンキャンパス参加）**

1年次トップクラスの生徒を中心に高い志を持たせ、グローバルな研究に触れることで、日本のみならず世界に貢献しようとする志を育成するとともに、東京大学を第1志望校とする進学意欲を創る。

・ **第3学年勉強会**

3年生の部活引退後の夏季休業中に、一定期間集中的に学習を中心とした集団生活をおくり、集中力・持続力を養い、受験科目に対する弱点補強を重視し、学力の伸長を図ると同時に、自学自習に対する自信を持たせる。

・ **進路指導資料の充実**

大学の資料や最新の過去問題を参考にすることにより、進路意識を高め、生徒が目標に向かい学習する一助とする。

・ **教職員の大学訪問**

実際に大学の学風・構成・講義・研究内容の実態を知り、新しい入試制度においてその大学が具体的にどのような学生を求めているか、どのような研究を得意分野としているかを知るために、教職員が実際に大学訪問する。そして、教授等から得た情報を蓄積し時代に即した進路指導力につなげる。